

## SRI '97 特集

## 特集に寄せて—SRI '97の顛末

SRI '97実行委員会 植木 龍夫 (原研・理研大型放射光施設計画共同チーム\*)

第6回放射光装置技術国際会議(The 6th International Conference on Synchrotron Radiation Instrumentation)は、国内の放射光施設、学会と科学技術庁の協賛および兵庫県と姫路市の後援の下に姫路市で8月4日(月)から8日(金)の間、姫路市市民会館を中心に多くの研究者などの参加を得てにぎやかに開催された。ホスト研究所が原研・理研大型放射光施設計画推進共同チーム(SPring-8)であることから、実行委員会をSPring-8に、事務局を(財)高輝度光科学研究センター(JASRI)において準備することとなった。会議の開催がSPring-8でのビームライン建設および供用開始を控えた試験調整運転(コミッションング)の最も忙しい時期であることから、SPring-8の研究者を動員することを押さえなければならない事情の下での準備であった。

会議はSPring-8リーダーの上坪宏道氏を委員長とする組織委員会の下に、国際アドバイザー委員会(国内外の放射光施設長からなる)、プログラム委員会(委員長:安藤正海氏(高工研))、出版委員会(委員長:大野英雄氏(SPring-8))と実行委員会で活動を始めた。周知のように、本会議は、放射光の光源、測定装置および測定手法の研究開発に関して最新の研究成果を発表するとともに、専門分野を越えた情報交換、研究交流を行う場として3年毎に開催される、放射光装置技術全般に関する最も権威ある国際会議である。まず、会議の性格をどのようにするか、ストーニーブルック(アメリカ)での前回の会議の考え方—私見ではあるが、かなり利用研究に重点がおかれていた—をまな板に載せ議論が始められた。組織委員会とプログラム委員会での議論の結果、会議の本来の目的である「装置技術」をキーワードにすることとした。もちろん、サイエンスを念頭に置いた装置と技術であることはいうまでもない。

会議の前日、3日(日)の登録の後、夕方から“Get Together Party”がもたれ、3年ぶりの再会を楽しんで本会議にのぞんだ。

会議は、上坪宏道氏(SPring-8)および貝原俊民氏(兵

庫県知事)の挨拶に引き続き、H. Winick氏(アメリカ)とI. Munro氏(イギリス)の総合講演によって始められた。一般の発表は、招待講演、口答発表、ポスター発表の3種類である。口答発表とポスターセッションはそれぞれ並行して2会場で行われた。

セッションは、  
 加速器技術  
 ビームライン技術  
 挿入光源技術  
 光学系技術  
 検出器  
 マイクロビーム  
 次世代放射光光源

の基本的な技術に関する発表と利用研究により密着した

分光  
 回折・散乱  
 イメージング  
 医学利用  
 産業利用

および  
 施設報告

などであった。

ポストデッドライン発表の申し込みが数多くあり、最終的には招待講演が52件、口頭発表が67件、ポスターセッション306件、ポストデッドラインポスターが35件および施設報告が24件であった(発表数合計484件)。会議冒頭の総合講演のほか、放射光「初」観測以来50年といったことから、特別講演“Fifty Years of Synchrotron Radiation”でJ. Blewett氏(アメリカ)、R. Madden氏(アメリカ)、K. C. Holmes氏(ドイツ)及び佐々木泰三氏(日本)から、昔の興味深い話を多く聞かせていただいた。

会議の前日の“Get Together Party”のほかにも、後援していただいた姫路市の市長による4日の招宴、6日(水)のSPring-8サイト見学(夕方からバーベキューを楽しんだ)、7日(木)の特別講演の後のバンケットなどいくつか

\* 原研・理研大型放射光施設計画共同チーム 〒679-5143 兵庫県佐用郡三日月町三原  
 TEL 07915-8-2814 FAX 07915-8-2816

の楽しい催しも企画され参加者の好評を呼んだ。とくにバンケットでは、シンクロトロン之歌の紹介(佐々木氏他)やイギリスからの参加者有志による出し物など爆笑をよんだ。

会議の参加者は、国内から372名および国外から230名、合計602名で当初の予定数500名をはるかに越えた。アメリカ(52)、フランス(35)、ドイツ(26)、イギリス(24)、韓国(12)、ロシア(9)、台湾(7)、中国(6)、オーストラリア(6)、ブラジル(6)、イタリア(5)、デンマーク(4)、タイ(3)、スウェーデン(3)、チェコ(1)、オーストリア(1)、フィンランド(1)、スイス(1)、オランダ(1)、ブルガリア(1)の20カ国から参加が数えられた。姫路市にこのように短期間に多くの外国からのお客さんを数えたのは初めてのことらしい。会議の発表と並行して、企業展示が行われたが30社からの出展をいただいた。

最初に述べたように、準備には SPring-8 の研究者の動員は最小にとどめたが、前日の会場(参加登録デスク、口

頭発表会場、ポスターセッション、企業展示室、E-Mail 設備、カフェテリアの設営)などには SPring-8 (原研、理研と JASRI) から多くの研究者の応援をいただいた。会議の受付などの業務は、東京のバイリンガル・グループにお願いした。朝食、コーヒー、ジュースなどの準備は好評であったと思う。ビザの必要な国々からの参加者のためには、必要書類を作成・送付することは大変煩わしい作業であるが、理研の国際協力に支援いただいた。多くの応援・支援に感謝する。

会議のプロシーディングスは、Journal of Synchrotron Radiation の1号としての発行となり、通常国際会議のプロシーディングスよりはかなり厳格な査読がなされた。その結果、リジェクトされた論文もかなりあったと聞いているが、350件をこえる論文が掲載されると聞いている。JSR の SRI '97プロシーディングス号は5月に配布される予定である。

今回の SRI (SRI '00と書くのでしょうか?) はドイツで開かれると聞いている。